

活動名	非常勤講師をする院生のためのエンパワメントとネットワーキング
代表者氏名・所属	本山央子:人間文化創成科学 ジェンダー学際研究専攻 D3
構成員氏名・所属	林亜美:人間文化創成科学 ジェンダー学際研究専攻 D3 バラニャク平田ズザンナ:人間文化創成科学 ジェンダー学際研究専攻 D3 カキン・オクサナ:人間文化創成科学 ジェンダー学際研究専攻 D1

大学非常勤講師の低賃金や身分の不安定さは大きな社会問題になっているが、経験のない大学院生の場合は、特に弱い立場におかれがちである。また、自身の研究を行う傍ら質の高い教育を行うための基礎的な知識や技能を得る機会もなく、個人の努力任せの状態である。そこで、これから大学非常勤講師として働く／働き始めた大学院生を主な対象とし、悩みや経験、知識を共有することで、互いに助け合いエンパワーすることを目的として、以下の活動を行った。

(1) ワークショップの開催

① 労働契約について学ぶ(8/2)

講師 中島由美子さん(全国一般労働組合東京南部書記長)、松元千枝さん(ジャーナリスト／大学非常勤講師)

内容 労働契約に関する講義のあと、参加者が勤務先大学と交わした労働契約書や雇用条件通知書、あるいはこれに準じるものを持ち寄り、具体的な項目について質問。

② 伝わる講義とは(10/20)

講師 師玉真理さん(神奈川工科大学)

内容 日本語のコミュニケーション能力を高める表現教育を専門とする講師から、表現する主体を育成する教育実践についてお話していただいたあと、質疑応答、意見交換。

③ 非常勤講師と研究のバランス(11/22)

講師 皆川満寿美さん(中央学院大学准教授 ジェンダー論)

内容 20年以上にわたる非常勤講師の経験から、生計、制度、研究、私生活に関するアドバイスをいただいたうえで、質疑応答、意見交換。

(2) ネットワーキング

上記ワークショップを通じてメンバーを募り、本校および他大学の院生、非常勤講師を本職とする人など約20名がメーリングリストで情報・意見交換をしている。

本プロジェクトを通して、悩みや経験をわかちあえるネットワークの存在それ自体が、孤立しがちな非常勤講師にとってエンパワリングであることが確認できた。今後、労組や常勤教員、大学との協力を通して定期的に意見交換の場をもうけるとともに、情報発信にも力を入れていきたい。

